

会派調査(研修)報告書

NO.

令和 7年 1月 28日

胎内市議会議長

八幡元弘様

(報告者) 緑風会

会長 薄田 智

緑風会 会派行政視察 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 7年 1月 23日 至 令和 7年 1月 24日 1泊 2日 (2日間)	調査・研修 場 所	千葉県野田市
調査・研修 事 項	のだしこども館 supported by Kikkoman 施設の概要、建設の過程、効果及び今後の課題等について		
調査・研修 出席者(参加者)	会長 薄田 智 副会長 渡辺秀敏 幹事長 筧智也 会計 増子達也 渡辺宏行 坂上清一 八幡元弘		
相手方(対応者)	野田市役所 健康子ども部 児童家庭課 課長 内田一也さん 健康子ども部 児童家庭課 課長補佐 山崎正浩さん 健康子ども部 児童家庭課 主査 西山修一さん 議会事務局 主任主事 岡田和歌子 のだしこども館 supported by Kikkoman 指定管理者 株式会社コマー センター長 坂巻麻美子さん 第2事業部 部長 笹野晋助さん		

調査の結果または概要

○ 千葉県野田市（1月23日(木) 13:30～15:15）

千葉県最北端の市であり、関東平野のほぼ中央に位置しており、市の中心部は下総台地、市の東を利根川、西を江戸川、南を利根運河によって、三方を河川に囲まれている。利根川を挟んで対岸が茨城県、江戸川を挟んで対岸が埼玉県である。

醤油業界最大手のキッコーマン株式会社と白醤油部門で業界最大手のキノエネ醤油株式会社が所在。国内3分の1程度を生産する日本最大の醤油生産地である。

○ のだしこども館 supported by Kikkoman

施設の概要、建設の過程、効果及び今後の課題等について

野田市では「さまざまな子どもたちが集い、こどもの成長に必要な遊びを通して学べる場」、「保護者同士が安心して気軽に交流や相談ができる場」、「子どもたちの体験活動を市民が支え、多世代の交流が図れる場」として、子育て支援や地域交流の拠点となり楽しく遊びながら学ぶことができる魅力ある施設として、令和4年10月1日に「のだしこども館 supported by Kikkoman (児童センター)」をオープンさせた。

施設は、鉄筋コンクリート造の2階建てで、設計・施工一括発注公募型プロポーザル方式にて建設。工事費は9億4,460万円、指定管理料は年間6,000万円程度。地域経済の活性化を図ることを目的としてネーミングライツを導入し、令和4年8月から5年間、キッコーマン株式会社との契約している。ネーミングライツ料は年間300万円。

計画当初は、近隣市にある大型児童センターの利用者数を参考に、年間9万人程度の利用を見込んでいたが、オープン以降、令和4年度で65,539人、令和5年度は110,217人、令和6年度は12月末現在で79,109人

と当初予想を超える利用者数となっている。また、中学生以上の利用にも対応できるように、バスケットゴールや音楽スタジオ、パソコンコーナーなどを整備したことで、令和5年度の中高生の利用者数が8,984人と多く、活動内容の幅が広がってきている。施設利用料金は、活動にかかる材料費等を除き無料としている。市外からの利用も全体の2～3割ほどあり、こども館以外の施設や商店等の利用にも期待しているとのことであった。

建設に向けた特徴としては、市長が選挙公約に掲げていたこともあり、平成29年10月から市長自ら市内全小中学校に出向き、「市長と話そう集会」を行って子どもたちの声を聞き、そこで出た意見を大いに参考にされたとのこと。平成30年12月に「子ども館整備に向けた庁内検討会」を設置し、令和4年7月まで地元自治会説明会等を行い開館となった。市議会議員などの関心も高く、一般質問等による改善も多いとのことであった。

建設場所の選定に関しては、6か所ある既存の小型児童館のほぼ中央で、児童数のバランスなども考慮している。近隣に大型自然公園を有する埋蔵文化財（岩名作遺跡）の市保有地を活用することで、東武野田線・清水公園駅西口から徒歩15分、近隣バス停から徒歩5～10分など、利用しやすい場所であるとのこと。

市役所にて概要説明を受けた後、現地に移動し施設を案内いただいた。自然光が多く差し込む作りで、当日も複数組の乳幼児を連れた方々利用しており、ニーズの高さと居心地の良さが十分感じ取れた。利用者カードを無料で発行し来場ポイント制にして利用者増を目指すなど工夫もされている。また市長も時間を作って度々来訪しているとのこと、直接子どもたちと話をしているので、施設利用者には市長の認識率がかなり高いとの話であった。さらに利用者アンケートや意見箱などを積極的に活用したうえで、より利用者ニーズに沿った運営を心掛けているとのことであった。

先進地事例として、市民に寄り添った野田市の本事業は、当市が今後、生涯学習施設建設に向け、市民との合意形成を図りながら建設に向けて進めていく中で、今後の進め方に大いに参考とし活用できると感じた視察であった。